

令和5年度事業計画

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

◆事業計画の目的

本会は、定款の目的、第3条の「この法人は、我が国におけるバドミントン界を統括し、代表する団体として、バドミンントンの普及発展を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。」に沿って事業計画を実施します。

昨年度は、本会創立75周年記念事業を展開し、8月には国内史上初の世界選手権大会を開催することができ、バドミンントンの普及発展と選手強化に寄与しました。今年度は、組織運営の透明性の確保とガバナンスの確立を具体化に向けて組織改革・事務局改革を更に推進し、先ずは6月役員改選までに定款、諸規程を見直し、理事会と事務局機能の大幅な改革を図ってまいります。

また、約3年にわたりコロナウイルス感染症対策を余儀なくされ、大きなコストを負担してきましたが、5月には政府は感染症法上5類に引き下げる方針であることから、国内外の大会や諸活動には行動制限がなくなります。これを契機に、多くの競技者や観戦者を積極的な施策により惹きつけ、バドミントン競技の普及や会員拡大に向け、先ずは令和元年度の30万人回復を目指します。

選手強化については、世界選手権東京大会で、女子単の山口茜選手の金メダル、混合複の渡辺・東野ペアの銀メダル、女子複の永原・松本ペアの銅メダルと合計3個のメダルを獲得しました。若い日本代表選手たちも世界ジュニアで宮崎友花選手が女子シングルスで優勝するなど順調に育っており、2024年パリオリンピック選考レースの今年度は、一人でも多くの出場選手が誕生するよう、更なる選手強化を図っていく所存です。

1. バドミンントンの普及及び指導

(1) 第32回全国小学生バドミントン選手権大会

スポーツ振興及び普及はもとよりスポーツを通じた健全育成を目的とした大会で、令和5年12月22日から12月26日まで、沖縄県那覇市、豊見城市で開催。

(2) 第24回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

早期よりバドミンントンに興味を持たせ、選手の発掘、健全育成、競技力の向上と振興を目的とした大会で、令和5年8月11日から8月13日まで、香川県高松市で開催。

(3) 第39回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

全国の小学生にバドミンントン競技への機会を広く提供し、競技を通じて相互の交流を深めると共に、体力の向上、健全で豊かなスポーツの育成を目的とした大会で、令和5年7月28日から7月31日まで、京都府長岡京市で開催。

(4) 第53回全国中学校バドミントン大会

中学生に正しい技術の習得を図り、心身の健全な育成を目的とした大会で、令和5年8月20日から8月23日まで、高知県高知市で開催。

- (5) 第24回全日本中学生バドミントン選手権大会
中学生の健全育成に寄与することを目的とした大会で、令和6年3月22日から3月24日まで、大分県大分市で開催。
- (6) 第52回全国高等学校選抜バドミントン大会
高校生の交流と技術指導を目的とした大会で、令和6年3月24日から3月28日まで、滋賀県大津市、草津市で開催。
- (7) 第41回全日本レディースバドミントン選手権大会
バドミントンの普及と競技力の向上、また、参加者を通じての啓発を目的とした大会で、令和5年7月27日から7月30日まで、長崎県長崎市、諫早市で開催。
- (8) 第18回全日本レディースバドミントン競技大会（個人戦）
バドミントンの一層の普及・発展を目的とした大会で、令和5年11月23日から11月26日まで、東京都調布市で開催。
- (9) 用器具検査並びに認定
競技用具を調査、研究及び検査し、規格に合格した用器具を認定して、愛好者が安心して競技に臨む環境を提供する。とりわけ検定審査会を年3回に増やし、またウェア、ラケット等の認可時期を検定審査の2か月後に短縮して通年で愛好者のニーズに対応する体制を定着する。
- (10) 競技規則書及びルール教本発行
競技規則並びに諸規程の周知徹底と各都道府県協会または8連盟が審判講習会・審判員資格検定会等の実施に対して使用される「2022-2023 BADMINTON 競技規則（諸規定集）」を本年度は、発行する。並びに3級・準3級公認審判員資格検定会でルールを分かり易く周知徹底させるための「ルール教本（2022年版3級・準3級公認審判員資格検定会ルール教本「緑本）」を本年度は、発行する。これにより常に新しい競技規則等の正確な資料を提供し、正しいルールに基づく円滑な試合運営の実施と公認審判員有資格者の増員と資質の向上に資するものとする。
- (11) 指導教本発行
令和元年度から実施された新たな公認スポーツ指導者養成制度（公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本バドミントン協会）及び、本会「公認スポーツ指導者資格規程」、カリキュラムなどの改訂に伴い、新養成制度の構築と実施に向けて、コーチ3、コーチ4の養成講習会用公式テキスト（アドバンスコーチ）を作成する。
- (12) 広報活動
都道府県協会との一体化した広報活動と、インターネットを利用した情報提供の内容を充実する。また、情報ネットワーク及びマスメディアなどにより、愛好者の拡大を図るとともに、PR啓発活動を進める。
- (13) 学連助成
全日本学生バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図

る。

(14) 高体連助成

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(15) 中体連助成

日本中学校体育連盟バドミントン専門部の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(16) 小学生連盟助成

日本小学生バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(17) 教職員連盟助成

日本教職員バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(18) レディース連盟助成

日本レディースバドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(19) 実業団連盟助成

日本実業団バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(20) 社会人クラブ連盟助成

日本社会人クラブバドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(21) 小・中・高一貫指導

「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高一貫の指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を実施する。

(22) バドミントン・アーカイブの収集・整理・公開

本会の歴史やバドミントン競技の歴史を残すことにより、本会の存在意義、バドミンントンの価値を多くの人々と共有し、バドミンントンの発展に寄与する。このため、バドミンントンの歴史資料、書籍、大会の記録、プレーヤーの映像、各都道府県協会の資料などを収集、整理し、バドミンントンの記憶として残し、大会会場などで多くの人に公開する。

(23) バドミントン・レガシーの創出と継承

我が国のバドミンントンの持続的発展を可能にする多様なバドミンントン活動を、バドミンントン・レガシーとして創出し、整備し、継承していく。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、バドミンントンに関連する青少年の教育や様々な人材育成に力を入れ、将来のバドミンントン伝道師役となるであろう、青年を海外に派遣するなど様々な活動を行い、バドミンントンを育て、発展させた理念・文化を直接

体験し、その体験を多くの人と共有し、我が国のバドミントン文化の発展に寄与する。

(24) バドミントンフェスタ2023

ファン感謝祭を実施し、バドミントンファンへ日頃の応援の感謝の意を伝えるとともに、バドミントンの普及発展に寄与する。今年度は、中止する。

(25) バドミントンファンクラブ

日本バドミントン界の普及・発展及びバドミントンファン拡大を目的とし、新たなファンを獲得することでメジャー化を図る。設立して5年を経過することから運営について見直しを検討する。

(26) バドミントンフォーラム

日本バドミントン界を取り巻く状況について、加盟団体と意思疎通を図り、本会と加盟団体との協力関係、連携の益々の強化を図る。

2. バドミントンに関する公認審判員及び公認指導者の養成と資格の認定

(1) 公認レフェリー有資格者の第1種大会への派遣と資質の向上

公認A級・B級レフェリー有資格者を本年度実施予定の全ての第1種年次大会（26大会）及び国際親善レディースバドミントン大会に、レフェリー及びデピュティレフェリーとして派遣し、大会の運営全般の統一性と公正化を図る。

さらに平成26年度に創設された国内レフェリー認定委員制度（兼国内レフェリーインストラクター制度）を活用し、公認A級レフェリーの養成を図るとともに、公認B級レフェリーの資質の向上と養成を図る。

(2) 公認B級レフェリー資格検定会開催

公認レフェリー制度に基づき、公認A級レフェリーの増強と公認B級レフェリーの定数（全都道府県各1名、9地区各1名、8連盟各1名）の維持を図るために、公認B級レフェリー資格検定会を実施する。

(3) 公認審判員資格認定登録

公認審判員資格登録規程による合格者を各級公認審判員に認定し、登録させ、各地で実施する大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営を図る。また、中高生を対象とした準3級公認審判員資格取得者についても、今後も更なる資格者の取得養成を進めていく。こうした正しい競技規則の習得や審判技術のマスターは、更なるバドミントン技術向上にも役立ち、また、各加盟団体が開催する数々の大会において円滑な大会運営に活用されることに寄与する。

(4) 国際審判員・レフェリー資格取得試験受講者の養成と国際審判員・レフェリー資格既得者の研修及び活動

国際審判員資格者養成規程に基づき Badminton Asia 国際審判員受講有資格者を対象とした国際審判員養成セミナー（講習会）を年に一度ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン（ワールドツアースーパー750）開催時に併せて開催し、国際審判員資

格取得受講者の養成を図る。また、国際審判員・国際レフェリーインストラクター制度を活用し、国際審判員・国際レフェリーの資質の向上を図る。

- (5) 国際審判員、国際線審の派遣、受入および国際審判員相互派遣事業（イクスチェンジプログラム）の推進、国際審判員の国内開催国際大会への派遣
バドミントン界における国際貢献に寄与するとともに国際審判員並びに国内審判員の資質・技術向上及び、競技運営の改善を図るために、マレーシア、シンポール、香港、中国、韓国、フランスの6か国との間で実施されている国際審判員相互派遣事業（イクスチェンジプログラム）を推進するとともに、世界バドミントン連盟（BWF）、Badminton Asia からの国際審判員、国際線審の派遣・受入要請に協力をする。
- (6) 公認スポーツ指導者養成講習会
公益財団法人日本スポーツ協会と共催して、コーチ4、コーチ3、コーチ2、コーチ1の養成講習会を開催し、全国各地で活動している指導者に受講を促し、基本的、専門的スポーツ技術の指導と教育を行い、公認指導者資格の取得を推進する。
- (7) 公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会
各都道府県で開催する公認スポーツ指導者養成講習会で講師を務める者を育成・認定するための公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会を開催する。
- (8) 公認スポーツ指導者の資格更新
公益財団法人日本スポーツ協会と共催事業である「公認スポーツ指導者育成事業」の各級養成講習会の合格者を、公益財団法人日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者制度」に登録し、公認スポーツ指導者資格更新のための研修会（更新研修：4年間に一回受けなければならない）を開催し、資質の向上及び指導体制の充実を図る。

3. 公益財団法人日本スポーツ協会、世界バドミントン連盟（BWF）及び Badminton Asia への加盟と国際貢献

- (1) 公益財団法人日本スポーツ協会等への代表者派遣
公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）への代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、本競技の発展を図る。
- (2) 世界バドミントン連盟（BWF）総会等への代表者の派遣
2023年5月26日にメンバーズフォーラム、5月27日に年次総会がマレーシアクアラ Lumpur で開催される。年次総会に代表者が参加し意見交換と交流を図り、世界バドミントン連盟の事業活動と加盟諸国におけるバドミンントンの普及発展に協調し、バドミンントンの国際的な発展、平和的持続的な社会への貢献を図る。
- (3) アジアバドミントン連盟（Badminton Asia）総会等への代表者の派遣
年1回開催される総会に代表者が参加し意見交換と交流を図り、アジアバドミンントンの事業活動と加盟諸国におけるバドミンントンの普及発展に協調し、バドミンントンのアジアでの発展、平和的持続的な社会への貢献を図る。

(4) 国際貢献

2017年より6年間に渡り続けられてきたBadminton 4 Tomorrow事業を継続し、大会開催時において日本のバドミントンプレイヤーの使用済みラケットの回収を呼びかけ、新興国のバドミントン発展に貢献する他、各国と連絡をとり、バドミンントンの普及発展に必要な協力を模索し実現できるよう努める。

バドミントン発展途上国に競技力向上支援事業（コーチ派遣・海外指導合宿実施・国内受入等）の拡充と物品支援を行い、国際貢献を通じて世界バドミンントンの持続的発展及び平和的貢献に寄与するとともに国際的な人材の育成に努める。

国内を訪れる各国関係者、プレイヤーと積極的に意見交換を行うように努め、バドミンントンの普及発展に必要の協力を模索し実現できるよう努める。

特に今年度は、南米ペルーのリマに本会のトップコーチを派遣し、パンナム地区の各国の有力選手を対象に指導貢献を行う。（8日～9日間の予定）

また、BWFが推奨しているエアバドミンントンの普及支援を行い、今年度は、ANOC第2回ワールドビーチゲームズ（令和5年8月5日から12日まで、インドネシア・バリ島で開催）に日本代表チームを編成し派遣する予定。

4. バドミントンに関する国内競技会の開催

(1) 第16回全国社会人クラブバドミントン選手権大会（個人戦）

令和5年6月23日から6月25日まで愛媛県松山市で開催。

(2) 第73回全日本実業団バドミントン選手権大会

令和5年6月21日から6月25日まで愛知県名古屋市で開催。

(3) 第74回全国高等学校バドミントン選手権大会

令和5年8月16日から8月21日まで北海道札幌市で開催。

(4) 第62回全日本教職員バドミントン選手権大会

令和5年8月22日から8月26日まで北海道札幌市で開催。

(5) 第25回全国高等学校定時制通信制体育大会バドミントン大会

令和5年8月15日から8月18日まで神奈川県小田原市で開催。

(6) 第11回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会

令和5年8月12日から8月13日まで滋賀県草津市で開催。

(7) 第47回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会

令和5年8月30日から9月1日まで東京都葛飾区で開催。

(8) 第66回全日本社会人バドミントン選手権大会

令和5年9月2日から9月6日まで京都府京都市、向日市で開催。

(9) 日本スポーツマスターズ2023バドミントン競技会

公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業で、令和5年9月16日から9月18日まで福井県勝山市で開催。

- (10) 第42回全日本ジュニアバドミントン選手権大会
令和5年9月15日から9月18日まで愛知県豊田市、刈谷市で開催。
- (11) 特別国民体育大会バドミントン競技会
公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業で、令和5年10月13日から10月16日まで鹿児島県指宿市で開催。
- (12) 第74回全日本学生バドミントン選手権大会
令和5年10月6日から10月12日まで愛知県名古屋市で開催。
- (13) バドミントンS/Jリーグ2023
令和5年11月4日から令和6年2月24日までの間、全国各地で開催。なお、表彰式は、2月24日の予定。
- (14) バドミントンS/JリーグⅡ2023
令和5年11月16日から11月19日まで佐賀県唐津市で開催。
- (15) 第40回全日本シニアバドミントン選手権大会
令和5年11月3日から11月5日(50歳以上から80歳以上まで)まで福岡県北九州市、福岡市、久留米市で開催。令和5年11月25日から11月27日(30歳以上から45歳以上まで)まで北九州市、久留米市、春日市で開催。
- (16) 第77回全日本総合バドミントン選手権大会
令和5年12月24日から12月30日まで東京都調布市で開催。
- (17) 第24回全国社会人クラブ対抗バドミントン選手権大会
令和6年2月10日から2月12日まで静岡県静岡市で開催。

5. バドミントンに関する国内の国際競技会

- (1) 大阪インターナショナルチャレンジ2023
令和5年3月29日から4月2日まで大阪府で開催。
- (2) ダイハツジャパンオープン2023 (ワールドツアースーパー 750)
令和5年7月25日から7月30日まで東京都で開催。
- (3) ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2023
令和5年10月19日から10月23日まで大阪府大阪市で開催。

- (4) 熊本マスタースジャパン2023 (ワールドツアースーパー 500)
令和5年11月14日から11月19日まで熊本県熊本市で開催。

6. バドミントンに関する国際大会への代表者の選考及び派遣

- (1) スティルマン杯
令和5年5月14日から5月21日まで中国・蘇州市で開催
- (2) 世界選手権大会
令和5年8月21日から8月27日までデンマーク・コペンハーゲン市で開催。
- (3) 世界ジュニア選手権大会
令和5年10月2日から10月15日までアメリカ・テキサス州で開催。
- (4) 日韓中ジュニア交流競技会
令和5年8月23日から8月29日まで和歌山県で開催。
- (5) 日韓高校生交流競技会
<未定>
- (6) 第38回日韓バドミントン競技大会
令和5年4月12日から4月16日まで韓国・大田広域市で開催。

7. バドミントンの競技力の向上

- (1) スポーツ医科学研究
公益財団法人日本スポーツ協会、独立行政法人日本スポーツ振興センター及び本会強化本部の各部と連携し、バドミントン競技の特性を研究しながら、トレーニング技術や目標を達成するためのメカニズムを明確にしていくとともに、スポーツ医科学のサポートスタッフの養成を促進し、併せて資質とレベルの向上を図り、競技力向上と強化体制を整える。
- (2) アンチ・ドーピング対策
公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) との協力により「日本ドーピング防止規程」によりドーピング検査を実施し、アンチ・ドーピング対策を実施する。また、ナショナル代表、ジュニア代表選手へのアンチ・ドーピング広報活動を積極的に進める。
- (3) 選手強化
全日本総合選手権大会の成績を中心に各種大会や日本ランキング等を参考に2024年パリオリンピック対策プロジェクトと位置づけ、ナショナルチームA代表・B代表を男女別に日本代表選手として編成し、国内合宿・海外遠征等により強化を図り、オリンピックでのメダル獲得を目指す。また、競技者育成の一貫指導システムを中心としてジュニア選手の競技力向上を図るために、カテゴリーをU-19 (高校生)・U-1

6（中学生）・U-13（小学生）に分けて強化を実施する。オリンピック、世界選手権大会等に備え有望新人を発掘の上、国内外合宿において育成強化を図り、国際大会（世界ジュニア）等に派遣、メダル獲得を目指す。

8. 組織運営

（1）ガバナンスコードの推進

スポーツ庁において策定された「スポーツ・インテグリティの確保に向けたアクションプラン」において、スポーツ基本法第5条第2項に規定する、スポーツ団体における自ら遵守すべき基準の作成等に資するよう、適切な組織運営を行う上での原則・規範として、スポーツ団体ガバナンスコードが策定された。本会は、ガバナンスコードの遵守状況について、具体的かつ合理的な自己説明を行い、これを公表する。

本年度は、倫理委員会の倫理・コンプライアンス委員会への発展など司法機関組織の見直しやアスリート委員会の運営等に取り組む。

本年度は、理事会、評議員会及び役員等候補選出委員会等の組織改革を推進し、必要な規程の整備を行う。また、事務局機能の再構築も同時に図り、組織的な対応力のレベルアップを推進する。

（2）S/Jリーグの改革

S/Jリーグ委員会を中心に、リーグの価値と構造を再度検証し、BWF国際大会カレンダーやオリンピックレースなど日本代表強化とのバランスを考慮し、かつ参加チームにとってもメリットがあるリーグ運営方式の構築を目指す。

以上